

れんぎ
認定特定非営利活動法人 **日本雲南聯誼協会**

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261
Email:yunnan@jyfa.org URL:http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-3311468 Fax.+86-871-3320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa
ブログ 雲南の郵便屋さん 検索

編集・発行人 初鹿野 惠蘭
印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan Friendship Association

彩雲の南

第47号

会報

発行日 2013年(平成25年)11月15日



無数の愛が開いた少女たちの未来への扉 「25の小さな夢基金」6年目の物語

みなさん、想像したことがありますか？ 協会の支援によって建てられた小学校で学び、「25の小さな夢基金」に支えられて大学進学を夢をかなえた女の子がいることを。もうすぐ6年目を迎える「25の小さな夢基金」。みなさんの愛情に支えられ大きく人生を変えた劉慧娟さんは現在、日本留学の夢を胸に、雲南大学法学部で勉強を続けています。



濁流うねる怒江に抱かれた山の中に、劉さんの村があります→

↑2005年に行われた協会支援第6校秋那桶小学校開校式ここに劉さんもいました

劉さんは、雲南の東北端・怒江リ族自治州にある外界と断絶したような小さな村で、生まれました。彼女は小学生の時、劇的な体験をします。通っていた学校のバラックのような校舎が、日本のNGOの支援によって清潔で安全な建物に建て替えられたのです。2005年6月、開校式のために小学校を訪れた日本人たちの温かさを、劉さんは今でも忘れられません。その時から小学校の名前は「日中秋那桶僑心小学校」に変わりました。支援したNGOの名前は「日本雲南聯誼協会」。開校式には初鹿野惠蘭理事長や北原茂実理事など、30名近い会員が参加していました。

それから4年、春蕾クラスに進学した劉さんは、夢基金生となり協会と再会します。夢基金生は、全員が雲南各

地の山村出身。生まれて初めて親元を離れ、不慣れた都会でひたすら勉強する彼女たちの3年間を支えたのは、夢基金サポーター 1人1人の愛情です。これまでに日本の皆様のご支援を受けた女子高生は300人を超え、その半数以上は既に高校を卒業し、ほとんどが大学進学を夢を叶えています。

劉慧娟さんもそうした愛情に支えられ、春蕾クラスを巣立った夢基金生の1人になりました。成績が良く、踊りも得意だったため、2010年の協会10周年記念式典の際には夢基金生代表に選ばれ、来日も果たしました。2012年6月に高校を卒業、努力の甲斐あって大学にも合格しました。

日本に来て、生まれて初めて海を見ました。生涯忘れられない瞬間(右端)→



↓2010年来日した際には、早稲田大学で講演もしました



←春蕾クラスに入学したばかりの頃は、あどけなさの残る少女でした

現在、劉さんの目下の夢は、日本に留学すること。「たくさんの方の愛情で、私の心は温かく満たされました。だから将来は日本と雲南の橋渡しをして、恩返ししたいのです。本当のことを言うと、いつか聯誼協会で働くのが夢なんです」。近況報告のために訪れた協会の昆明事務所、劉さんははにかみながらそう話してくれました。



↑長い間見守ってくれた日本のお母さんに卒業の報告

今でも休みには実家に帰り、農作業を手伝っています→



「いつか日本と雲南の橋渡しをして、皆さんに恩返ししたい」(右が劉慧娟さん) ↓



「夢基金」少数民族女子高生、初めての上海で日本人学生と交流

「25の小さな夢基金」で応援する昆明女子高校春蕾クラスの女の子たち10名が、上海日本人学校の生徒と交流するため、この夏初めて上海を訪れました。日本人学校では、日本人生徒たちと一緒に歌や踊り、そして剣玉やおはじき、百人一首などの日本の伝統的な遊びにもチャレンジするなど大いに盛り上がり、予定時間を大幅に過ぎての終了となりました。

上海日本人学校高等部には現在101名が在籍。昆明女子高校春蕾クラスでは、150名余りが親元を離れ昆明市で勉強しています。家庭の事情や生活環境まで何もかも違う同世代の若者たちが、言葉の壁を軽々と乗り越えて交流する姿を見て、お互いを認め合い、信頼できる仲間となつて、新たな時代の日中関係を築いていこうと確信しました。(平田栄一=会員)

第1回日雲高校生国際交流プログラム

2013年7月9日上海日本人学校

主催：認定NPO法人日本雲南聯誼協会

協賛：メディアネットインターナショナル(株)

上海日本人学校/昆明女子高校

参加者：昆明女子高校生徒10名、上海日本人学校高等部生徒101名

同行者：昆明女子高校教師2名、認定NPO法人

日本雲南聯誼協会職員2名、三木秀隆会員



お互いにとって貴重な経験になりました!



←上海日本人学校高等部・水野俊夫校長先生は英語で歓迎のスピーチ

↓言葉の壁なんて、簡単に乗り越えられる!

↓最後は「友情のトンネル」でお見送り

姉から妹へ、「夢」のリレーがつながる

「25の小さな夢基金」第2期生として日本人サポーターの支援を受けながら勉強し、2010年に無事高校を卒業した回族の陳玲さん。大学進学を夢を見事に実現し、現在は雲南大学の4年生として法学を勉強しています。今年9月、その陳玲さんの妹・陳星さんが、お姉さんの後輩として「夢基金」昆明女子高校春蕾クラスに入学しました。

陳さん姉妹は、大理白族自治州巍山彝族回族自治县の小さな山村出身。父親は病気で、母親1人が苦勞して家計を支えています。そんな厳しい環境の中、陳星さんは地元中学で優秀な成績を修め、姉に続いて学費無料の春蕾クラスに選ばれる快挙を成し遂げました。

陳星さんの夢は、教師になって人を育てること。これから3年間今まで以上に懸命に勉強し、お姉さんのように夢を叶えて欲しいですね。



↑陳玲さん(左)は2010年の6月に「夢基金」春蕾クラスを卒業

→そして今年、妹の陳星さん(右)も晴れて春蕾生に! 雲南支部職員とお姉さんに付き添われ、夢基金プロフィールの作成です



「25の小さな夢基金」サポーター募集中!

●夢基金の詳細はホームページまたは同封のチラシをご覧ください。

学費無料の昆明女子高校・春蕾クラスでは、成績優秀でありながら経済事情や男尊女卑の文化的背景などから進学が難しい少数民族の女の子たちを雲南省全域から受け入れています。「25の小さな夢基金」は、春蕾クラスの生徒1人1人にサポーターを募り、生活費やお手紙の交換による支援を行うプロジェクトです。今年9月、第8期生となる90名が入学し、未だ71名が支援を心待ちにしています。皆様、応援宜しくお願いします!

http://www.jyfa.org/2_education/edu_8.html

日中の学生が 手を携え、 少数民族の子どもたちに 大きな「夢」の プレゼント!

第2回
支援校児童劇巡回公演
実施報告

日中の劇団と協会がタッグを組み、支援小学校5校を巡回した昨年の児童劇公演事業。第2回目の今年は、6小学校での公演が実現しました。その全公演を陰ながら支えたのは、日雲の大学生ボランティアです。昨年に続いて参加した立命館アジア太平洋大学 (APU) “笑xiao”メンバー9名に加え、雲日国際大学生協会の中国人学生6名が、様々なハプニングを乗り越え、公演を成功に導きました。その活躍ぶりは、劇団道化の篠崎省吾理事長をもって、「学生たちがいなければこんなに上手くいかなかった」と言わしめるほど。2週間余りの公演を通し、日雲の学生たちは泣いて別れを惜しむ程の絆も育みました。更に今年の公演では、劇団道化の若手メンバーが中国語の演技を披露。日中の若い力が一丸となり、生の演劇に触れる機会がなかった子どもたちに“特別な時間”をプレゼントできました。

プロジェクトチーム(順不同・敬称略)
【劇団道化】篠崎省吾理事長、中村芳子副理事長、永井亜紗和、野村勇作、山本美侑、楠瀬規夫、小村共悟
【日本雲南聯誼協会】林娜
【ボランティア】庄司智哉、小田猛、杉谷謙次、山田佳典、望月昭宇、金田美穂、川崎由加里、長谷川友愛、鶴岡紗季
(以上立命館アジア太平洋大学“笑xiao”)
王寧、趙聰、華雨、李媛、豊奕雯、錢美珠(以上雲南大学滇池学院)、大塚健史、大友滋敦
【報道関係】久永健志(西日本新聞社中国総局長)
【日本在中国大使館】三上正裕、早乙女尚
その他現地政府、教育局、小学校関係者、先生方たくさんの皆様



2週間余りの共同作業を通じて、日雲の学生たちの心はひとつに



雨なんてなんのその！心が通う、特別な瞬間



感動をありがとう!



2013日本雲南聯誼協会支援小学校児童劇巡回公演

演目：NPO法人劇団道化「変変変」3びきのコブタ

- 9月2日 白雲小学校(支援11校目)
- 9月4日 藤誼小学校(支援4校目)
- 9月5日 遠福中心小学校(100万回手洗い)
- 9月6日 匹河中心小学校(100万回手洗い) ※雨天のため途中閉幕
- 9月9日 両勤小学校(支援22校目)
- 9月12日 清平小学校(支援18校目)
- 9月13日 布京小学校(支援24校目予定) ※悪天候の影響で公演断念



子どもたちとも、とことんふれあいました!



公演前半に回った4校は奇しくも全てが「100万回手洗いプロジェクト」の支援校。今回、株式会社ビックメイドミュージック・江藤雅樹社長のご厚意で、4校全てに石鹸と石鹸ネットを贈呈しました。



アジア未来への人材プロジェクト

日雲の大学生、初めての交流会開催

児童劇公演事業の合間、9月7日に開かれた交流会に参加したのは、中国側から雲日国際大学生協会の学生37名、日本側はAPU“笑xiao”の学生9名、そして協会ボランティアの宇都宮大学大学院・鄭思宇さん、東京女子大学・店網華子さん。大学生同士の交流は初めての試みでしたが、最後には日雲双方の学生から「毎年恒例の行事にしていきたい」とのリクエストが出るほどの盛り上がりを見せました。

“笑xiao”は2008年の設立以来、毎年のように協会支援小学校を訪れ子どもたちと交流してきたものの、大学生と接するのは今回が初めて。メインの交流では、伝統の中国結び作りや「蛙の歌」の輪唱に全員でチャレンジし、「同世代の学生と交流できて面白かった」「日本の大学生とまったく違う生活に驚いた」と話してくれました。雲南側の学生たちも、日本人学生とふれあうのは初めての人が多く、交流会後の懇親会では質問が止まりませんでした。

司会を務めた李彦博さん(滇池学院4年生)は、ユーモアたっぷりに会場を盛り上げました。雲南師範大学・白蕊先生の開会宣言の後、雲南側代表として協会の張哲会長(滇池学院3年生)、“笑xiao”の小田猛代表と川崎由加里副代表が挨拶しました。

児童劇公演の合間を縫って参加した“笑xiao”メンバーは元氣一杯



中国結びを紹介するのは司会の李彦博さん。もちろん日本語ですよ!



人生初の輪唱に四苦八苦。日雲双方の学生にとって忘れ難い時間となったようです

雲日国際大学生協力会・新代表からのご挨拶

今年度会長に就任した張哲です。新学年度が始まった9月以降も、私たち協力会は、聯誼協会の様々な活動に参加しています。日頃から日本語を勉強している私たちにとって、協会でのボランティアはまたとない実践の機会です。協会活動への参加を通じて、日中の民間交流促進に貢献しているという実感もあります。

9月初旬の児童劇巡回公演では、2週間にわたって、日本の大学生ボランティアと協力しながら田舎の子どもたちに喜びをプレゼントし、その視野を広げました。雲南と日本の大学生が言葉の垣根を越えて交流する大学生交流会も開催し、相互理解を深めました。「25の小さな夢基金」春蕾高校クラスでの日本語授業ボランティアでは、学ぶことに貪欲な生徒たちから刺激を受けるとともに、聯誼協会の活動意義を再認識しました。

これからも私たち協力会は、皆で協力し合い、助け合って、雲南と日本をつなぐ本当の架け橋になりたいと思います。(張哲=雲南大学滇池学院3年生)



「夢基金」春蕾クラスでの先生ぶりも板についてきました

速報! 第2回日本文化理解研修無事終了!

日本語を学ぶ雲南の大学生を対象に実践的なビジネススマナーを教える「日本文化理解研修」の第2回が11月6日、無事終了。昨年に続いて講師を務めた滝澤崇さんが、6日間かけて3大学100名余りの学生に熱弁をふるいました。詳細は次号でご報告します!



「小さな壁新聞プロジェクト」2年越しの“お返事”に、子どもたちの瞳輝く

通算3号目となる日本版壁新聞を作ってくれた市川市立南新浜小学校に、9月27日、雲南の子どもたちが作った壁新聞をお届けしてきました。お届けしたのは協会支援第20校「后山小学校」の子どもたちが作った雲南版第5号目。后山小の子どもたちは昨年9月、南新浜小の子どもたちが作った壁新聞を受け取っており、今回はその“お返事”をお届けするかたちとなりました。

また、10月8日には、多摩市立多摩第二小学校にも同じ壁新聞をお届けしました。多摩第二小は日本版壁新聞5号目を作ってくれた学校です。かつて雲南の支援小学校に日本版壁新聞を届け、今回の二校の訪問にも立ち会った会員の平田栄一さんは「子どもたちが目を輝かせる瞬間に日本と雲南の両方で立ち会えたことがなにより嬉しい」と話してくださいました。日本と雲南、子どもたちの心は確実に通い始めています。

【訪問者(順不同・敬称略)】奥脇弘久、平田栄一、大鷲修平、初鹿野恵蘭



2年越しの“お返事”に、子どもたちの目は輝きます

多摩第二小学校では佐島規校長先生が壁新聞を受け取ってくださいました

教室に集まってくれたのは、2011年に壁新聞を作ってくれた南新浜小学校の現5年生



日本雲南聯誼協会全国巡回写真展「笑顔を君に」

北の大地で子どもたちの笑顔花咲く! 無数の方に支えられ、札幌特別展無事終了

数えきれない方のご協力により、ついに実現した「笑顔を君に」札幌特別展。5日間の展示にのべ60名のボランティアがご協力くださり、2,400名近い皆さんにご来場頂きました。

今回展示された写真は、雲南の辺地に生きる子どもたちのほんの一瞬を切り取ったものですが、どの1枚にも生命が宿っています。

何気なく通り過ぎようとした人が、写真の中の子どもと目を合わせ、足を止めて見つめ出す...そんな光景を何度も目にしました。熱心に見、説明も読んでもらえると、私たちも嬉しくなります。こちら心も込めて解説し、質問にも答える、その繰り返しの5日間でした。

大崎功雄会員は、地元の協力者を全力で集めてくださっただけでなく、毎日旭川から往復3時間かけて会場に通っていただきました。大崎会員の呼びかけで、学生たちはもちろん、多忙な大学教授までがボランティアとして熱心に写真展を支えてくれました。

民族衣装の学生ボランティアたちの笑顔は、もう一つの華でした。同じ会場でライブステージに上がった若者が、演奏の合間に写真展を薦めてくれたことも。行動しなければ出会いは生まれません、その証明を見たように思います。

本当にたくさんの方や組織がジグソーパズルのように隙間なく力を合わせ、特別な写真展は大盛況のうちに閉幕しました。(近藤一=名古屋支部長)



オープニングセレモニー、ご来賓の皆さんとともに。特別展実現のため、様々な形でご尽力くださった皆さんです

5日間の会期中、本当にたくさんの方にお越しいただきました!



↑ボランティアの汗と涙のかたまり、当日午前1時まで設営・撤収とも夜間、空調のない中での厳しい作業



↑ミーティング中の学生ボランティアたち。これが生まれて初めてのボランティアという学生がほとんど



日程:2013年8月19日(月)~23日(金)

会場:サッポロファクトリー アトリウム

後援:中華人民共和国駐札幌総領事館、札幌市、札幌市教育委員会、JICA北海道(札幌)

協賛:サッポロホールディングス株式会社、サッポロ都市開発株式会社、JR北海道、JR総連、JR北海道労組、北海道日中友好協会、株式会社技術評論社、日本産業投資技術促進株式会社

個人協賛(敬称略・順不同):河原美知子、近藤一、大崎功雄、中村有里子、片岡蔵、匿名4名

オープニングセレモニー【初日11時~12時 写真展会場で開催】司会:滝澤崇

ご挨拶:サッポロホールディングス株式会社・岩間辰志名誉顧問(日本雲南聯誼協会顧問)、中華人民共和国駐札幌総領事館・許金平総領事、JICA北海道(札幌)・丹羽憲昭所長、北海道日中友好協会・町田真英理事長

乾杯のご発声:サッポロ都市開発株式会社・菅笠誠代表取締役社長

ボランティア(敬称略・順不同):滝澤崇、林則幸、近藤一、大崎功雄、鈴木肇、平田栄一、瀧澤大樹、小出達夫、町井輝久、田中新、池江咲耶、古部望、ティリダール、陳慕テツ、他現地大学生11名、JR北海道労組青年部の皆さん、事務局(初鹿野恵蘭、藤宮子)

広報/ボランティア募集協力:北海道NGOネットワーク協議会、北海道大学国際本部国際支援課、北海道教育大学学務部国際課、札幌大学SUICC、札幌大学孔子学院、札幌国際大学教務学生課、北海道工業大学、北海道学芸大学学生部、藤女子大学国際交流センター、酪農学園大学エクステンションセンター国際交流課、北海道国際交流・協力総合センター、札幌国際プラザ、札幌国際交流会館、札幌国際ユースホテル、みんたる、札幌市内各区分センター、JR貨物労組、人民日報海外版日中新聞他

9回目の開催! 総勢98名が大熱戦!

雲南省少数民族貧困児童・教育支援チャリティーゴルフコンペ

10月12日、富士山の麓・山梨県大月カントリークラブで第9回チャリティーゴルフコンペが行われ、過去2番目の多さとなる25組98名が白熱のバトルを繰り広げました。

今回集まったご寄付は過去最高額となり、新たに夢基金生3人を支援することが決定、昨年高校を卒業した3人も合わせると、これで12人の学生がコンペによる支援で勉強を続けられるようになりました。暖かいご支援、本当にありがとうございます!

協賛、ご寄付(順不同・敬称略)

綿半ホールディングス株式会社、大月カントリークラブ、京王プラザホテル、サッポロホールディングス株式会社、みずほ銀行四谷支店、テラーメイドゴルフ、株式会社サイサン、株式会社村上製本所、株式会社技術評論社、日本産業投資技術促進株式会社、JR総連、村田昭二、参加者全員 幹事:片岡蔵顧問



↑今年の優勝者は野崎宏さんおめでとうございます!



初めてのボランティア体験記

今回初めて日本雲南聯誼協会の存在を知り、「笑顔を君に」札幌特別展にボランティア参加しました。参加した3日間、じっくりと写真1枚1枚を見ていって下さる方や、お急ぎの中足を止め見て下さる方、本当にたくさんの方と接しました。異なる価値観を持つ人とお話しするのは刺激的で、影響を受けました。

印象深かったのが、笑顔の女の子の写真を見て「幸せそうだ」と言った男性。「靴も無ければ学校にも通えないが、この子にとっては生まれた時からそれが当たり前。自分のことを不幸だと思っていたらこんな笑顔にはなれない」と仰いました。そういう考えもあるのだと気付かされました。

それでも、食べる物にも困る貧困から抜け出すため、1人でも多くの子どもたちが勉強できるように活動を続ける協会の趣旨には心から賛同します。自分にできることからするのは、とても重要なことです。私にとって、たくさんの方のことが出来る3日間でした。(池江咲耶さん=北星学園大学3年)

9月は2カ所同時開催! 全国巡回写真展「笑顔を君に」

in 半蔵門(通算第14回) 2013年9月3日(火)~27日(金) 市民国際プラザ
in 西尾(通算第15回) 2013年9月11日(水)~23日(月) 六万石ギャラリー



↑東京・半蔵門では市民国際プラザさんの全面的なご協力により、3週間に及ぶ長期展示が実現しました



↑愛知県の「小京都」西尾市では、築100年の古民家を改造したギャラリーでの展示
↑近藤一名古屋支部長による企画で、支部長お手製の陶器も一緒に展示されました

祝! 10度目の出展! グローバルフェスタJAPAN2013 の熱い2日間

毎年恒例、日本最大の国際協力イベント「グローバルフェスタ」が10月5日、6日の2日間、日比谷公園で開催されました。初日は生憎のお天気でしたが、2日間の来場者はのべ8万人。いつも以上に大勢のボランティアにご協力頂き、協会として記念すべき10回目となった出展も大盛況に終わりました。



2日間で集まったご寄付は6万円余り、お2人がご入会、3人がボランティア登録をしてくださりました。皆さんありがとうございます!



ボランティア協力(敬称略・順不同) 滝澤崇、林則幸、近藤一、近藤森雄、佐々木英介、李陽、辻伸洋、山本茂規、小野村柚佳、木本一彰、瀧澤大樹、山本晶、上原正夫、相馬翔太、アリアスマイ、ラヒムトラ・シャオケット、ミワ、劉翠、龔建英、岩沙圭、久継智弘、初鹿野仁、東京本部事務局(初鹿野恵蘭、山田美葉)

「イベント」支援している学生のご紹介

<p>シャングリラの貧困大学生</p> <p>陳剛さん(漢族) 2010年9月雲南師範大学入学 現在4年生、2014年6月卒業予定 2010年 第6回コンペより支援開始</p>	<p>唐玉蓮さん(ナシ族) 2010年9月山東師範大学入学 現在4年生、2014年6月卒業予定 2010年 第6回コンペより支援開始</p>	<p>李振さん(ペー族) 2010年9月西南民族大学入学 現在4年生、2014年6月卒業予定 2010年 第6回コンペより支援開始</p>
<p>「25の小さな夢基金」女子高生</p> <p>鄭浩潔さん(モンゴル族) 2012年9月昆明女子高校「春蕾クラス」 入学現在2年生 2012年 第8回 コンペより支援開始</p>	<p>馬国淋さん(ハニ族) 2012年9月昆明女子高校「春蕾クラス」 入学現在2年生 2012年 第8回 コンペより支援開始</p>	<p>李滿華さん(漢族) 2012年9月昆明女子高校「春蕾クラス」 入学現在2年生 2012年 第8回 コンペより支援開始</p>
<p>馬麗飛さん(回族) 2013年9月昆明女子高校「春蕾クラス」 入学現在1年生 今回のコンペより 支援開始</p>	<p>王麗萍さん(イ族) 2013年9月昆明女子高校「春蕾クラス」 入学現在1年生 今回のコンペより 支援開始</p>	<p>韓化冰さん(チワン族) 2013年9月昆明女子高校「春蕾クラス」 入学現在1年生 今回のコンペより 支援開始</p>

東日本大震災支援交流プロジェクト 「心の復興」今なお一雲南と音楽が繋ぐ支援の輪

協会「東日本大震災支援交流プロジェクト」を継続的に応援してくださっている音楽レーベル・ビッグメイドミュージックは今年、国内外と被災地をつなぐ「ダンボール・メッセージ・プロジェクト」をスタートさせました。プロジェクト開始にあたり、被災地の現状にふれるため、協会が今年1月支援金をお届けしたいわき市の永崎小学校を同社江藤雅樹社長、佐藤真治福社長、アーティストの真理子さんの3名が訪問しました。佐藤副社長からのご報告です。

いわき市を訪れたのは、夏の猛暑が始まった8月7日。津波で流された橋が未だ復旧しておらず、遠回りをして永崎小学校へ向いました。小学校では、勝倉校長と片寄教頭がお迎えくださり、震災当時の写真を見ながらお話を伺いました。震災で校舎が破壊され、児童は別の小学校で勉強していましたが、今はほぼ復旧し、児童も戻っています。復旧後、校舎の1階部分は職員室や校長室など、児童が普段使用しない部屋に変更されたそうです。

江藤社長は神戸出身で、阪神・淡路大震災で被災した経験を持っています。少しずつ風化していく支援の動きの中、これからいよいよ大切な「心の復興」にどう取り組んでいくか、という観点でお話は進みました。

懇談を終え、学校を離れる間際、校庭に植えられているとある苗木をご紹介します。

「東日本大震災復興祈念」の札が掲げられたその木は、広島の高校から送られた被爆桜の二世なのだそうです。こうした交流が、人々の力となるのだと実感しました。

復興が終わるのは何十年も先かもしれませんが、「困っている人がいれば、支えていく」というシンプルな気持ちを、我々は絶対に忘れてはいけません。「今、何が出来るか」を常に考えて、復興支援活動を続けていきたいと強く思いました。

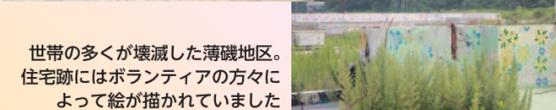
今回、この福島訪問にあたり多くのご尽力を頂いた日本雲南協議会の皆様をはじめ、永崎小学校、そして様々なふれあった現地の方々に、この場をお借りして心から御礼申し上げます。



右から勝倉校長、江藤社長、真理子さん、佐藤副社長、片寄教頭



津波で大きな被害を受けた永崎小も復旧が進み、訪問時には耐震工事が行われていました



世帯の多くが壊滅した薄磯地区。住宅跡にはボランティアの方々によって絵が描かれていました

ダンボール・メッセージ・プロジェクトのテーマソング配信!

配信の全収益が協会「東日本大震災支援交流プロジェクト」に寄付されます。プロジェクトについての詳細は↓こちらをご覧ください。

<https://www.facebook.com/danboru.message>

★25 雲南を彩る の星たち

連載第28回 ブミ族

総人口わずか3万3千人余りのブミ族は、ユニークな歴史を持っています。

主に雲南省怒江リズ族自治州蘭坪ペー族ブミ族自治県や麗江地区に居住していますが、元々は西晋王朝(265年～316年)時代に中国西北部に住んでいた「羌」という民族で、フビライ・ハンの元軍に従って雲南まで下りてきたのだとか。長らく「西蕃」という名前と呼ばれていましたが、現中国の民族識別の際に、自ら「ブミ」という名前の民族になることを選択しました。その時、四川に残っていた「西蕃」はチベット仏教を信仰していたためにチベット族になったということです。

「25の小さな夢基金」新1年生の熊成芬さんもブミ族。かつての騎馬民族の面影残る民族衣装です



雲南のブミは、その地で優位にあったナシ族やペー族とうまくやっていくために、巧みに言語や文化を取り入れ、少しずつ同化しました。それでも、チンター麦の発酵酒「スリマ」やブタの乾燥肉などの食習慣、新年や成人式、シャーマン「シビ」の存在、シビが死者にヤギを捧げる儀式「ロケ」など、固有の文化を根強く今日まで伝えています。ブミ族は13歳で成人を迎えますが、これは元軍と南下していたブミ族の13歳の少年2人が勇敢に戦ったのを、フビライ・ハンが称賛したこと由来なのだそう。逞しい民族像が浮かびます。

南里会員の 講座「悠とびあ」便り UTOPIA 第4回

進む都市大改造

昆明市は政府機能や大学などの殆んどが南に位置する新昆明(呈貢)へ移転が進んでおり、旧市街は都市大改造の真っ最中、地下鉄は縦横に6号線まで同時建設中で、一部は試運転を始め、年末には営業開始の路線も有るようです。

旧市街は至る所で大規模の取り壊し、広大な更地を作って近代都市へと改造中、中国では土地は国有地、思い通りに線引きして有無を言わず強制立ち退きとなるのです。

と言う事で私の住むすぐ近くでも人民西路、西園路、紅菱路と菱角塘路の4つの大道に囲まれた広大な土地に人民路壹号広場(the one plaza)と言う新しい街を建設中です。

昆明市壹号広場 (the one plaza) 完成予想図



205ム一*土地に、総建設面積が何と88万平米で4万平米の公園も出来ます。巨大なマンション群は既に大分建築が進み、更に西側(完成予想図右)にはオフィス、高級ホテルやレストラン、ウォルマートや世界のブランド品ブティック、映画館などが入り、地下街にはショッピングセンターなども出来ます。

昆明は中国の奥地、片田舎でもこの様な巨大投資、ダイナミックな都市改造ですが、高騰した住宅価格を払える人ともうとくに諦めた人との格差は正の問題もある中、先ずは文明都市、文明社会の建設が謳われています。

(南里稔=昆明在住会員)

★1ム一=約667平方メートル

イベント情報

第34回八王子いちょうまつり

日時：11月16日(土) 17日(日)
場所：並木町郵便局横(東京都八王子市)※協会出展場所

第16回町田発国際ボランティア祭「2013夢広場」 認定NPO法人日本雲南協議会講演会

日時：12月8日(日) 14:00～16:00
会場：町田市民フォーラム3階視聴覚室(東京都町田市)

第13回チャリティー忘年会 日本と雲南少数民族友好の夕べ

日時：12月21日(土)
会場：ピヤステーション恵比寿(東京都渋谷区)

江戸川総合人生大学国際コミュニティ学科講座 「日本に住む中国の人々の活動について」

講師：初鹿野恵蘭
日時：2014年1月22日(水)10:00～12:00
会場：篠崎文化プラザ(東京都江戸川区)

ワン・ワールド・フェスティバル(予定)

日時：2014年2月1日(土) 2日(日) 10:00～17:00
会場：大阪国際交流センター(大阪府大阪市)

TOPICS

9月26日、都内のホテルで開催された中国建国64周年を祝う国慶節のレセプションに、当協会の初鹿野恵蘭理事長が出席しました。



ご挨拶される程永華駐日大使

中洲慶子 昆明レポート

日雲の若者による交流が広がっています。9月7日に開催した「アジア未来への人材プロジェクト」日雲大学生交流会では、立命館アジア太平洋大学の学生9名と雲日国際大学生協会の学生37名が雲南師範大学の教室に集まり、中国伝統文化の中国結びを作ったり、日本の歌を合唱したり、笑いの絶えないひと時を過ごしました。協力は9月に新メンバーを迎え、「学生主導」の組織として日々漸進しています。「25の小さな夢基金」春蕾クラスでの高校生への日本語授業は、協会の滇池学院、雲南大学、雲南師範大の各大学が3クラスずつ担当し、学生たちが新米教師として奮闘中です。大学生の懸命さ、夢基金生の積極的で明るく学ぶ姿勢を見ると、私も頑張らなくては!と元気をもらいます。頑張った分だけ得られるものも多い現場での活動。昆明では燃料切れの心配はなさそうです。



日雲の若者のパワーに、いつも元気をもらっています

日本と雲南少数民族友好の夕べ 第13回チャリティー忘年会に遊びにいっちゃいませんか?

またまたチャリティー忘年会の季節がやって参りました。今年は交流の時間を例年より多く取る予定です。普段なかなか会うことのない会員同士、雲南好き同士の濃い～交流をお楽しみください。

日時：2013年12月21日(土) 17時～19時
場所：ピヤステーション恵比寿(JR恵比寿駅東口より徒歩5分)
会費：一般6,500円(学生5,500円)
定員：100名 ※先着順

お申込み、お問い合わせは事務局 03-5206-5260まで

編集後記

近頃は、フェイスブックなどで連絡を取り、高校や大学の同級生と手軽に会えるようになりました。でも、一番多く会っているのはやはり高校時代のクラブ活動のチームメイトです。同じ夢を追いかけた仲間と、今でもあの頃を振り返っては泣いたり笑ったり。「25の小さな夢基金」の支援を受け、故郷を遠く離れている春蕾クラスの子たちにもつらいことはたくさんあるはず。でも苦しみとともに耐えた友人は、困難に立ち向かう勇気を与える人生の宝物です。協会が行っているのは単に勉強の支援だけじゃないんだなあと感じます。(編集長・木本一彰)